

第1回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会 議事録

1. 日時:平成24年5月23日(水) 13:00~15:00

2. 場所:一般社団法人 日本自動認識システム協会 B会議室

3. 次第:

- | | | |
|--------------------|-------|--------------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 | 13:00 ~ |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 | 13:01 ~ |
| 3. 委員紹介 | 事務局 | 13:05 ~ |
| 4. 議事 | 半谷委員長 | 13:20 ~14:50 |
| 1) 委員長挨拶 | 半谷委員長 | 13:20 ~13:25 |
| 2) 本年度の計画概要 | 事務局 | 13:25 ~13:40 |
| 3) 本年度の検討事項および開発計画 | 中村委員 | 13:40 ~14:20 |
| 4) 調査計画案について | 事務局 | 14:20 ~14:40 |
| 5) 実証実験および参加依頼について | 事務局 | 14:40 ~14:50 |
| 6) まとめ | 半谷委員長 | 14:50 ~14:55 |
| 5. 事務連絡 | 事務局 | 14:55 ~15:00 |
| 1) 今後の日程 | | |
| 2) 写真撮影など | | |

4. 出席者:(敬称略)

- | | | |
|--------|-------|-----------------------------|
| ・委員長 | 半谷精一郎 | 東京理科大 工学部電気工学科 |
| ・委員 | 中村 敏男 | (株)OKI ソフトウェア 企画室 |
| ・委員 | 山口 利恵 | 産業技術総合研究所 セキュアシステム研究部門 |
| ・委員 | 菊地 健史 | (株)日立ソリューションズ プラットフォーム 外部本部 |
| ・委員 | 坂本 静生 | 日本電気(株) 第二官公ソリューション事業部 |
| ・委員 | 福田 充昭 | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所 |
| ・委員 | 吉福 貴史 | 日立オムロンターミナルソリューションズ(株) |
| ・委員 | 平野 誠治 | 凸版印刷(株) 事業開発・研究本部 |
| ・委員 | 山田 朝彦 | 東芝ソリューション(株) IT技術研究所 |
| ・オブザーバ | 鎌倉 健 | (株)富士通研究所 ソフトウェアシステム研究所 |
| ・オブザーバ | 山中 豊 | 経済産業省 産業技術環境局 情報電子標準化推進室 |
| ・事務局 | 酒井 康夫 | (一社)日本自動認識システム協会 |

5. 配布資料

- | | |
|------|--|
| 資料1: | 第1回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会アジェンダ |
| 資料2: | 平成24年度 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会名簿 |
| 資料3: | 平成24年度 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究PJ |
| 資料4: | 平成24年度 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究補助事業 スケジュール |
| 資料5: | 平成24年度 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究補助事業 事業の計画 抜粋 |
| 資料6: | BioIDMの進め方について |
| 資料7: | BioIDMの実証実験イメージ |
| 資料8: | 弊協会実施事業へのご協力をお願い |

6. 議事内容

1) 委員紹介

事務局より、資料2を用いて、今年度委員は基本的に昨年度のメンバの継続でお願いしたこと、また、委員の事情により、下記の方が変更になっている旨、紹介された。

① 寶木委員 → 山口委員 (産総研)

2) 本年度の計画概要

事務局より、資料3を用いて、平成24年度の「IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究」事業の概要の説明があった。昨年に引き続き 財) JKA 殿より補助金を受けて実施するもので、本年度は小型自動車等機械工業振興事業に関する補助金補助事業に変わったこと、また昨年度申請した三か年計画の第二年度であることが説明された。

平成24年度の事業は、認証基盤プロトタイプの開発研究の第2フェーズで、単一技術における認証基盤全体の開発を完了することが目標である。

現時点での計画は下記。

(1) 市場動向調査

- ・英国 BC2012 での IdM 関連状況調査 (定点調査)
- ・BSC システムの調査

(2) 開発研究

- ・IdM 関連規格調査 (OpenID、SAML、ACBio etc.)
- ・IdM 組み込み部の基本設計
- ・IdM 組み込み部の具体設計
- ・全体認証基盤プログラムの開発

(3) 検証実験 (OpenID を用いた SSO 機能の検証)

- ・認証基盤全体評価
- ・結果まとめ

このうち、「全体認証基盤プログラムの開発」と「実証実験」を委員企業から選定し、委託して実施することが説明された。

また、事業スケジュールが資料4を用いて説明され、参照のため、事業計画の概要は資料5に示してあるとの説明がされた。

質疑応答で、海外調査の定点観測として英国ロンドンで開催される Biometrics カンファレンスを選択している理由がたずねられた。情報収集に良い会議として、①米国の Biometrics カンファレンスと②英国 Biometrics カンファレンスの二つがある。米国のカンファレンスは米国政府の動きにかかわるものであり、資料等が公開されており情報収集ができる。一方、英国のカンファレンスは、全体の動きと標準化等もふくまれ、また会費制で情報及び資料が参加者のみに限定されている。このため、英国のカンファレンスを選択しているとの説明がされた。

審議により、提案通りの計画で進めることが承認された。

3) 本年度の検討事項および開発計画について

中村委員より、資料6を用いてバイオ IdM 共通本人認証基盤システムの検討事項および開発計画について説明があった。

本年度の目標等は下記。

- (1) BioIDM と SAML (または OpenID) との接続
- (2) バイオメトリック装置を用いた実証実験
- (3) ACBio との接続可能性検討
- (4) ドイツ BSI の BioAPI アーキテクチャ (TR-03121) と BioIDM との比較研究

開発項目等は下記。

- (1) IdM と連携し全体として動作するシステムの開発
 - ① OpenID あるいは SAML のような IdM システムと「BioIDM Connection」の接続方式の検討と、仕様の開発とプロトタイププログラムの開発
 - ② ベンダ BSP と「BioIDM Transaction」の接続
 - ③ 全体動作確認

質疑応答を経て、下記を検討することを加え、提案計画に従って進めることが承認された。

- (1) OpenID に ID 確認のグレードがある。システム連携の時、どういったグレードの ID の確認ができるのか、使ってもらえるのかの確認が必要と思う。検討の中で確認すること。
- (2) ACBio を組み込む場合は、ACBio のコンセプトである「正しいモジュールが使われていることを確認する」ことを、どこにどのように組み込むかが課題ではないか。その側面の検討も行ってもらいたい。

■ACBio のコンセプト

当初: 第三者認証された機器の使用が前提

現在: 第三者認証前提に変化 サーバ側でバイオメトリックな処理をする機器のなかで、どのような機器が信頼できるかを知り、それを使った認証であれば信頼する(第三者認証ではなくなっている)

- (3) 認証のセキュリティは、誰を如何に信頼するかに関わっている。前提が崩れると、信頼性が損なわれるため、十分に議論すべきである。「5) 実証実験および参加依頼について」の Q&A と関連。

4) 調査計画案について

事務局より、資料3ならびに資料4に計画を示してある海外調査のため英国 BC コンファレンス 2012 に瀬戸委員にご出張いただき、調査いただくことが提案され、承認された。

5) 実証実験および参加依頼について

中村委員より、資料7を用いてバイオ IdM 共通本人認証基盤システム(BioIDM プロトタイプ)の実証実験イメージについて説明があった。

質疑は下記。

Q1: OpenID の ID 取得はどの段階と考えているのか。

A1: 通常の OpenID の方式で ID を取得する方式に従うこと考えている。そこで取得された ID を使用することを考えている。その ID の認証にバイオメトリックな処理を追加するための登録処理と考えている。

初めてあるサイトにログインしようとした時に、そのサイトが OpenID に対応していると、OpenID プロバイダにリダイレクトされ、ID 入力をするタイミングがある。その時に OpenID プロバイダはバイオメトリック認証に対応していて、登録画面が出てきて、バイオメトリック認証使用の登録をすることになると考えている。

C1: OpenID プロバイダは通常選択ができるが、今回の説明ではバイオメトリックス認証の専用プロバイダでだけバイオメトリック認証の登録ができるように見える。このとおりだと OpenID に手加わり、将来的にすべてのプロバイダがバイオメトリクスに対応するというのは現実的ではない。一部のバイオメトリクスに対応した ID プロバイダから認証子をもって、他の ID プロバイダが認証するという考え方があってもよいと思う。そちらが広がりをお考えだと現実的ではないか。

A2: 一般的な OpenID の考えに基づいてバイオメトリック認証専用のサーバについても検討したい。

Q3: 今話し合われた認証手順は、パスワードを使った場合よりもセキュアと考えてよいのか。一か所でIDとパスワードを認証する場合と、別の場所でIDとパスワード認証するとなるとセキュリティが低くなるのではないかとの印象を持った。

A3: OpenIDはそこを考慮して作られているので大丈夫であると考えられる。
従って、OpenIDの登録プロセスがどこまでセキュアかということにあると思われる。

C2: OpenIDのシステムを使う場合は、セキュリティのレベルを4種類の中から選べる。その4択のうち、バイオメトリクス認証子をつける場合は、このバイオメトリクスをつかえば、レベルいくつに対応するというような応用もあるかと考える。

質疑を経て、実証実験に向けた方式設計等の検討およびプロトタイプ開発時に、バイオメトリクス認証部分が独立していた時にその結果をOPが信頼するためにどういふことをしなくてはならないかといふことを検討することとなった。(「3」本年度の検討事項および開発計画について)の項の検討事項(3))

また、事務局より、各委員のご所属の会社様に資料8に示すような正式文書を出し、実証実験に向けたバイオメトリック認証装置、BSP、SDKのご提供の依頼したい旨の提案があり、審議した。

審議結果は下記。

- (1) 文書を出して依頼する。発行者はJAISAとする。
- (2) 依頼は、プロジェクトごとにする。借用期限の記載も合わせること。
- (3) 広く公募するのは、委員各社の対応を見極めてからとする。
- (4) 既に協力を決められているベンダの方は、ご意思を5月末までに事務局へ連絡のこと。
- (5) 各ベンダ殿の文書送付先/連絡先を5月末までに事務局までご連絡いただくこと。
- (6) 依頼文書には、提供にあたっての条件やリターン等も明示すること。
 - ・応募いただいた機器全てを実験で扱うわけではないこと
 - ・実証実験の目的・・・本プロジェクトで開発するIdMシステムへの接続機能の確認
 - ・結果として何を報告するか、また結果をどのように扱うか
 - ・試験に向けた事前チェック結果をもとに各社と調整をすること
 - ・募集機器の仕様はBioAPI 2.xとする
 - ・提供物は誰が取り扱うかを明示すること
- (7) 依頼文書案は見直し後、各委員にてメール審議した後、発行する。(発行は6月頭)
- (8) 実証実験が委員会のなかで公開し、確認できること(中立的、公正な環境で実施すること)

7. 事務連絡

1) 次回以降の予定等

事務局より今年度の委員会の予定について提案があり、審議の結果、下記となった。
ただし、第3回目以降については、順次委員会にて確認をすることとなった。

- ①場所： 一般社団法人 日本自動認識システム協会にて
- ②日程： 第2回 8月24日(金) 13時から
第3回 11月21日(水) 13時から(要調整、確認)
第4回 平成25年2月13日(水) 13時から(要調整、確認)

2) 第2回委員会予定

日時：平成24年8月24日(金) 13:00～15:00
場所：JAISA 会議室B

以上